

# 乗雲

寺報  
第78号

H22.2.10 発行

編集人

〒959-2646 新潟県  
胎内市西栄町 2-8  
TEL0254-43-2419  
FAX0254-43-4560  
広蔵寺  
住職 神田英俊

メール  
otera@kogonji.jp

## 千の風になって

『わたしのお墓の前で泣かないでください。そこにわたしはいません・・・』こんな歌が流行りました。新潟市出身の小説家、新井満さんが日本語訳詩し作曲して、テノール歌手の秋川雅史さんが歌って空前の大ヒットとなりました。

『千の風になって』という曲の原作者はメアリー・フライ(Mary Frye)といふアメリカ人女性とされ、原詩の "I am a thousand winds that blow" を借りて『千の風になって』のタイトルがつけられたそうです。アメリカの同時多発テロの追悼式において、テロで亡くなった父親を偲び十一歳の少女がこの詩を朗読し、大きな感動を与えたとされています。その後、世界のあちろちろで様々な事故が続きその犠牲者や遺族を慰める

詩として歌われるようになりまし

た。  
新井満さんは、幼なじみの友人の奥さん(ガンで亡くなる)の死に直面し、三人の子供さんと友人を慰めようと、その追悼の会である人が、「千の風」の翻訳詩を紹介していたことから、その詩に感動を覚え、何ヶ月もかけその原詩(英語詩)を探し出し自分流に翻訳、作曲しこの曲が出来上がったそうです。

「そこ(お墓)にわたしはいません」このフレーズがあまりに印象強く流れて、「いないならお墓参りは必要ないのでは？」と思う人が出てきました。お墓の起源は、インドでお釈迦さまが亡くなられたとき、弟子や信者たちがその遺骨を八つに分け、それぞれが塔を建てて埋骨し供養したのが始まりとされています。そのことから言えばお墓は、遺骨を埋葬し亡き

人、先祖を供養するための塔として大切です。お墓にお線香お灯明を上げて亡くなられた人に功德をささげるといふ行為(仏塔建立の功德)に意味があります。『千の風になって』は、亡くなられた人は身近にいる、いつまでも私を見守ってくれている。そのことを感じさせてくれると同時に、遺族の傷ついた心を癒してくれます。一部分の歌詞よりもっと深い内容を感じ取りたいものです。

二月はお釈迦さまお涅槃の月です。『拘尸那(クシナ)のほとり風おちて、流れはむせが如月の、望の月影きよけれど、儂く雲にかげりゆく、双樹の沙羅に咲きみちて ま白き花は匂えども、散るを定めの花なれば、はらはら散りてすべもなし』(涅槃御和讃)、各寺院ではこの状況を再現した「涅槃図」を掛けて報恩の供養をいたします。仏舍利は八つに分けられ、それぞれ塔を建て埋葬供養されました。お墓があつてお参りすることによってこそ亡き人の思い出が立ち返るのではと感じます。

## 平成二十二年年度年回表

「回忌」	「没年」
一周忌	平成二十一年
三回忌	平成二十年
七回忌	平成十六年
十三回忌	平成十年
十七回忌	平成六年
二十三回忌	昭和六十三年
二十七回忌	昭和五十九年
三十三回忌	昭和五十三年
五十回忌	昭和三十六年
百回忌	明治四十四年

＊今年の年回忌のご案内は、昨年十二月に正当の各家に通知いたしております。  
＊日曜・祝日のご法事の申し込みはお早めにお願いたします。

「周」は「めぐる」ことを意味する言葉で、亡くなってからちょうど一めぐりした翌年のその日を一周忌と呼ぶ。回忌とは亡くなられた日を最初の忌日と考えて、三回目の忌日が「三回忌」となる。以降は丸六年目が七回忌となる。